

事業概要

【事業セグメント】

1. 自動車関連事業

自動車関連事業は、パイオラックス全体の売上高の約9割を占める主力分野です。

当社は、金属や樹脂をはじめ、あらゆる素材が持つ「弾性(ばね)」技術を応用した製品づくりを行う開発型自動車部品メーカーです。この強みと特性を生かすことで、多様な顧客ニーズに合った製品を提供することができ、当社の今日までの発展につながっています。

自動車部品の使用配置図

駆動系部品



トランスミッションなどの駆動機構に用いられるリテーナーアセンブリや、部品保持力を高めるためのスナッピングなど

開閉機構部品



グローブボックスの開閉機構に用いられる、エアダンパーやラッチなど

EV 関連部品



バスバーやガスターミナルなどの、バッテリーおよびモーター関連の部品

クランプ部品



パイプとゴムホースの接合部で、漏れ防止や抜け止めの役目を果たすホースクランプなど

ハーネス部品



車体の中を血管のように縦横に走る電線(ハーネス)類を、束ねたり車体パネルに固定したりするためのバンドクリップやテープ巻きクリップなど

ファスナー部品

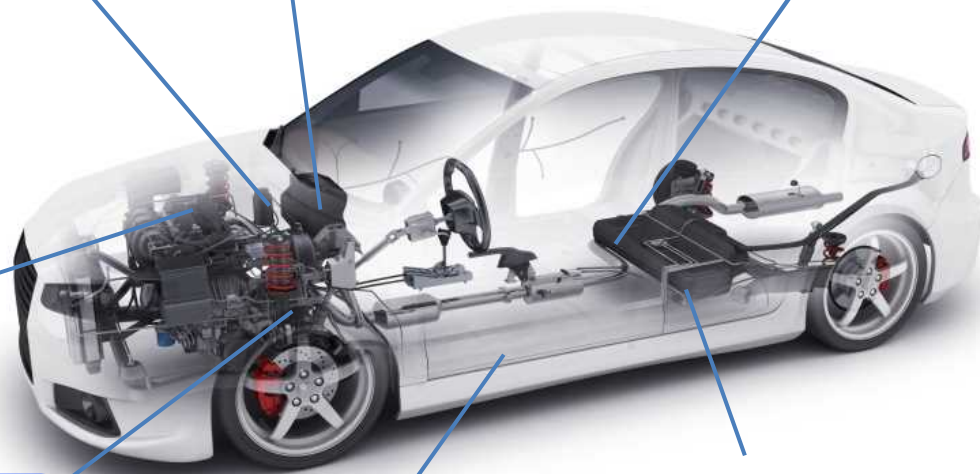


内外装部品や配管類を車体に固定する、トリムクリップなどのさまざまな樹脂ファスナー、金属ファスナーなど

燃料系部品



燃料を安全かつ確実に給油・貯蔵・供給するために用いられる各種バルブ、コネクタ、フィルターなど



自動車関連製品のご紹介

当社の自動車関連製品は、国内において業界トップクラスのシェアを誇っています。商品群としては、ファスナー部品／開閉機構部品／駆動系部品／燃料系部品に大別されます。各種製品の詳細は、製品情報サイト LiNX をご参照ください。



<ファスナー部品>

自動車の内外装部品や配管類を車体へ固定するためのさまざまな樹脂ファスナー、金属ファスナーを製造しています。

内装用では、見栄えを重視した人目につかない隠しタイプや、脱着繰り返し性の良い再生タイプ、さらには VOC (揮発性有機化合物) を低減した人体に優しいタイプなどがあります。

外装用では、ねじ締結の代替として、取付作業性に優れた高せん断で高保持力の樹脂製品や、一方向から組み付けられる樹脂製ナット、相手部品に仮固定できる金属製ナットなどがあります。



トリムクリップ



ガーニッシュ



パイピングクリップ



バンドクリップ

<開閉機構部品>



ラッチ



ダンパー



スプリングクッション



樹脂ヒンジ

主に車室内の収納ボックスに使用されている部品で、グローブボックスやコンソールボックス用のラッチ類や、収納ボックスが開く動きをソフトにすることで高級感が得られるダンパーなどがあります。

収納ボックスの蓋のがたつきを抑制するスプリングクッションは、従来のゴム部品に比べ、機能が半永久的に継続するだけでなく、閉じフィーリングも向上します。

また、蓋のヒンジに使用されている部品は樹脂製で、軽量化にも貢献しています。

<駆動系部品>

主にトランスミッションに使用されている部品で、変速用クラッチに使われる複合ばね(リテーナーアッシー)や、構成部品を保持するためのスナップリングが主力製品です。

近年は、金属部品からの置き換えで高温油中でも使用できる樹脂と金属の複合部品にも力を入れています。



リテーナーアッシー



スナップリング



バルブアッシー



パッフルプレート

EV を含む電動車向け減速機用の部品としては、パーキング機構に使われるディテントスプリングやねじりばね、ベアリングの隙間調整として板厚選択に使われるシムがあります。



ディテントスプリング

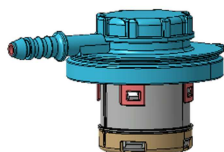


ねじりばね

<燃料系部品>



PHEV 用 CFLVV



ハイシール 2K-ROV



ガス抜き配管



コネクター一体型フィルター

主に燃料タンク周辺のガソリンベーパー（気体）や液体の流路制御に携わる部品を取り扱っています。これらは、ガソリン給油時の吹き返し防止や満タン検知、横転時などのタンクからの漏れ防止などの機能を果たします。

近年、車室の拡大やHEV車の普及によりガソリンタンクの容量や形状に関する制限が大きくなる中、バルブ機能の統合や液面制御向上によって、広く快適な車室空間の実現に貢献しています。

BEV や HEV 向け部品については、電池パックから発生するガスによる内圧の制御弁や、冷熱配管用のジョイントやコネクターの他に、循環オイル用のコネクター一体型フィルターの開発にも注力しています。

<CASE 対応商品>

4 つの SBU（戦略的ビジネスユニット）に属さない新しい価値創生にチャレンジするため、2022 年 4 月に発足した e 商品開発部では「環境や人に優しい」を提供価値の中心に位置付け、CASE 対応商品の研究開発を行っています。

バスバーや、バッテリーの異常時に一定時間その安全を確保するガス抜きバルブなど、電動車には欠かせない製品をはじめ、電動化により改めて注目されている低周波帯域の音性能に貢献する制振機能商品の開発を進めています。また、運転支援システムや自動運転に欠かせないセンサーやカメラ等の留め具にも、その機能を最大限に発揮させるための価値を追求しています。



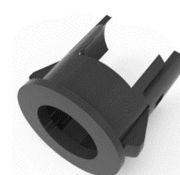
バスバー



ガス抜きバルブ



制振部品



ソナーブラケット

環境配慮型製品のご紹介

横浜テクニカルセンターが中心となって環境に貢献する商品開発を行っています。環境配慮型製品の基準には、「軽量化、部品点数削減、統合化、循環型社会に適応する材料選択」などがあります。

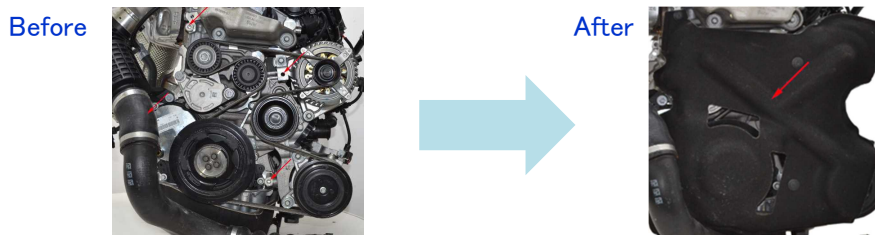
ファスナー部品開発 新車外騒音規制対応インシュレーター用 CLIP

リサイクル促進・易解体

製品のリサイクル促進のため、使用材料を見直し、リサイクルしやすい材料を選択しています。

回転するベルトとプーリーから大きな音が出ますが、新車外騒音規制に対応したインシュレーターを、特殊な構造物であるエンジンに取り付けることができるクリップを開発しました。リサイクル促進材料を使用し、解体のしやすさを設計で工夫しています。

今後も材料レベルから循環型社会への適応を推進します。



開閉機構部品開発 紐式エアダンパー改良品(部品点数削減)

軽量化

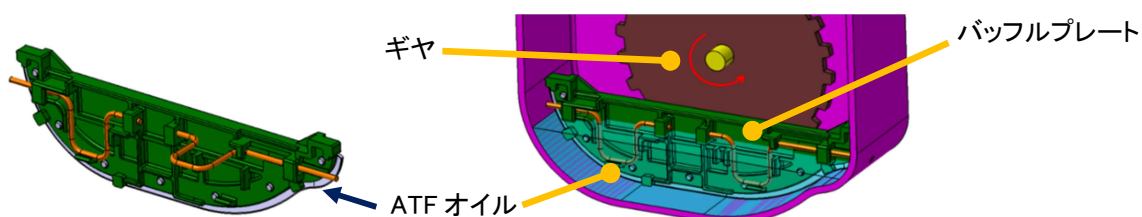
内部のオリフィス構造(空気が通る穴)を工夫することで、機能や性能を低下させることなく、従来品よりも構成部品を2点減らしました。軽量化および作業工程の削減に貢献する製品です。

	従来品	開発品
概略図		
部品点数	8 部品	6 部品

駆動系部品開発 オイル流入防止用バッフルプレート

燃費改善・軽量化

トランスミッション内でオイル(ATF)に浸かった状態で回転するギヤの攪拌抵抗を低減し、自動車の燃費改善に貢献する製品です。解析技術に基づいて、トランスミッションケースにはボルトを使わず線材のばね反力を応用して部品挙動を安定させています。



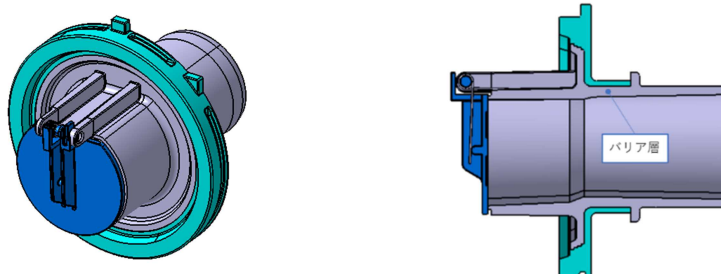
燃料系部品開発 2K-ICV

環境規制対応・軽量化

燃料タンクとフィルターホースの間に取り付け、給油時の燃料の吹き返しを防止する役割を持つバルブです。

2K(2 色成形) 工法により、ボディの内層に低透過材料を用いたバリア層を形成することで、大気中への燃料蒸発ガス放出量を低減し、北米・中国などの厳しい排出ガス規制に対応しています。

従来品に対し構成部品 (BODY-B) を 1 点減らすことにより、軽量化にも貢献しています。



CASE 対応商品 減衰ストッパー

軽量化

新たな価値創出という取り組みにおいて、当社グループでは、部品レベルでの軽量化設計に留まることなく、「車両レベルでの軽量化」という視点でお客様に提案を実施しています。

これまでの車両に見られた「低周波帯域におけるこもり音」に着眼し、この問題を解決するために、一般的なダイナミックダンパーの代替案として「減衰ストッパー」を開発しています。

制振機能を持つ材料をストップラバーに使うことで、ダイナミックダンパーの置き換えを狙っており、実現すれば車両 1 台当り 0.3 kg~1.8 kg軽くなります。



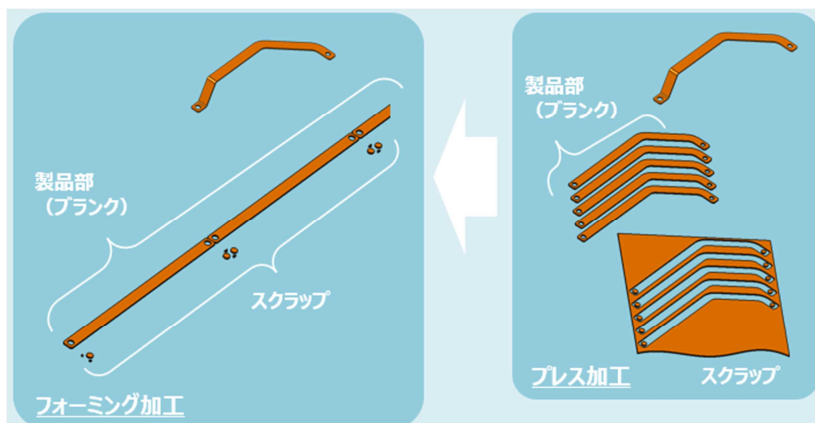
CASE 対応商品 バスバー

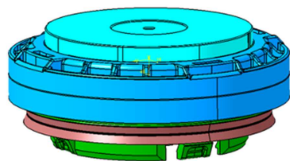
材料廃棄量の削減

EV をはじめとした昨今の移動機器には、多くの電子・電気ユニットが使われています。このための導電機能部品として注目されているのがバスバーです。バスバーはこれまでのワイヤーハーネスに比べて、レイアウトの自由度が高く効率が良いとされています。

バスバーには主に、導電性に優れた銅材が採用されています。反面、銅板を使ったバスバーはプレス加工で打ち抜かれるものがほとんどで、多くのスクラップが発生します。当社は「材料を無駄なく使い切りたい」という発想から、フォーミング加工機によるバスバーの生産を開始しました。

板材をプレスではできない板幅の方向に曲げることで、母材から発生するスクラップを 30%以上減らし、5%以下にすることに成功しました。





急拡大する EV 市場において、自動車メーカー各社はバッテリーの安全確保に細心の注意を払い、安全装置の研究をしています。

この領域においても、当社は長年培ってきた「バルブ」、「ファスニング」、「ばね」の技術をフル活用したガス抜きバルブを開発しました。これまでバッテリー筐体（きょうたい）にボルトで固定していたものを、ボルト無しで組み付け可能にし、軽量化と組立作業の簡易化を実現しました。

カーボンニュートラルへの取り組み

CO2 削減に向けた取り組みとして、バイオマス材料の活用や樹脂材料のリサイクル拡大の検討も進めています。

食品の袋や洗剤の容器などで、内側が銀色のアルミ素材、外側がプラスチック素材になっているものをご覧になったことがあると思います。これは、金属とプラスチックが貼りついて分別できないうえ大量に使われていることから、産業界で課題となっている難リサイクル包材です。

こうした難処理プラスチック材の課題解決と社会実装を目指し、産官学共同で「高度マテリアルリサイクル研究会」が 2022 年に設立されました。当社はこれに参画し、工場廃材（PIR*）の日用品包材への活用を検討しています。

資源循環型社会を実現するため、他業種と連携・共創しながら研究を進めていきます。



包材製造過程で出る廃材を
包材に活用した試作品

*PIR（ポストインダストリアルリサイクル）：市場に出る前の製品製造工程で発生した材料をリサイクルまたは再利用すること。

<研究開発の取り組み>

当社グループの研究開発は、設計部、e 商品開発部、生産技術部、各 SBU の開発グループ（海外子会社含む）、および、子会社の株式会社パイオラックスメディカルデバイス（PMD）の開発部門が推進しています。

「弾性を創造するパイオニア」をスローガンに、固体、液体、気体を問わず弾性を活用した製品の研究開発を行っており、自動車産業をはじめ生活関連、医療などさまざまな分野で「弾性」の可能性の追求に積極的に取り組んでいます。

当社グループの 2022 年度における研究開発費は 804 百万円（連結売上高比率 1.2%）です。中期経営計画で CASE を中心とした研究開発の強化を目標に掲げており、2025 年度の連結研究開発費売上高比率を 1.5%まで上げていく計画です。

2. 医療機器事業

子会社のパイオラックスメディカルデバイス(PMD)は、当社が自動車部品の開発・製造で培ってきた弾性技術をベースに、独自技術を付加した医療機器事業を展開しています。

従来はメスを用いた外科的手術が中心でしたが、患者様の身体的負担や出血、長期入院など、さまざまな課題がありました。PMDが目指す「インターベンション治療」は、患者様の体に大きな傷をつけることなく、皮膚に開けた直径2mmほどの穴や小切開から、体内や血管にデバイスを送り込んだり、内視鏡を介して処置具を送り込んだりする治療のことです。外科的治療に比べ身体的負担が軽いインターベンション治療を通じて、早期の社会復帰が可能な「人に優しい医療」を実現しています。

パイオラックスメディカルデバイスの目指す利用分野

* QOL: Quality of Life=生活の質

社会のニーズ

患者様の
QOL* 向上

高齢化社会
への対応

入院期間
の短縮

医療費の
削減

キーワード

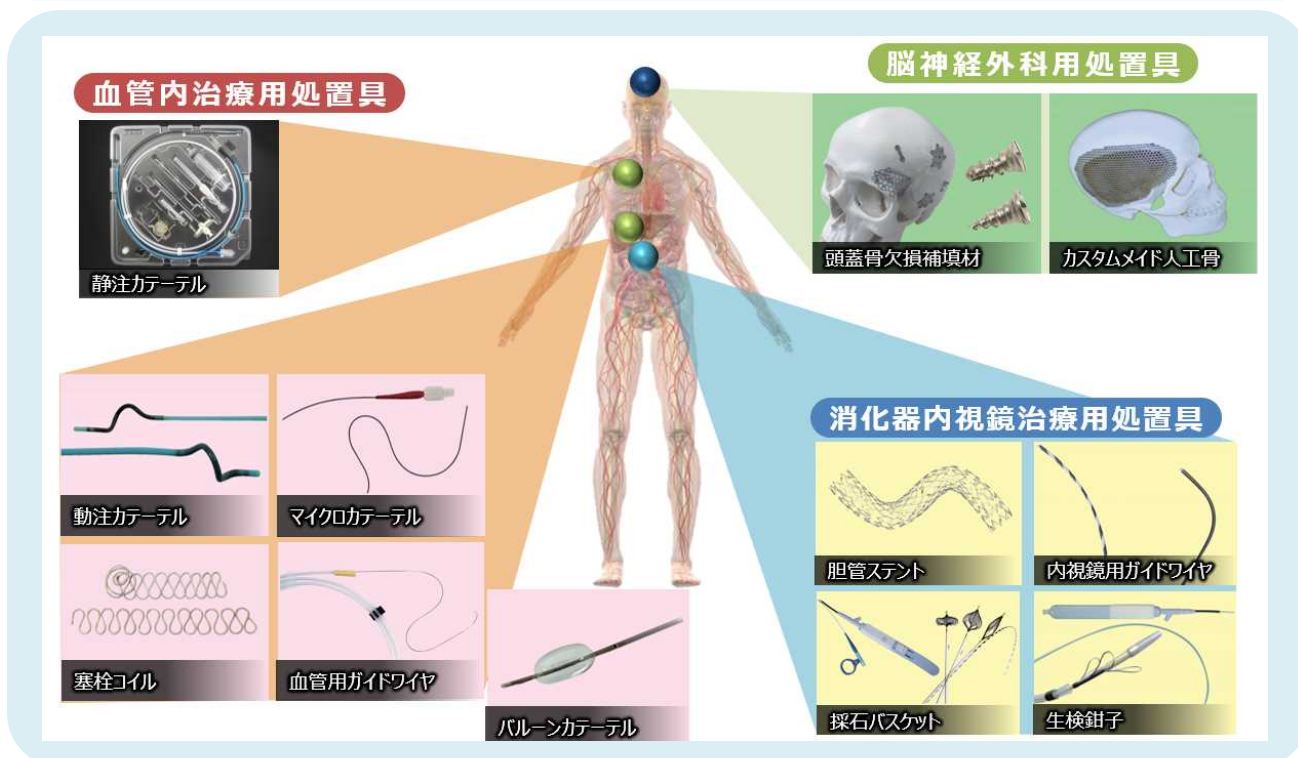
インターベンション

技 術

弾性応用

精密加工

親水性処理



<医療機器事業のPR製品>

消化器内視鏡用ガイドワイヤ RevoWave DualMaster(レボウェーブ・デュアルマスター)

消化器内視鏡用ガイドワイヤ「RevoWave DualMaster」の発売から約1年が経ちました。

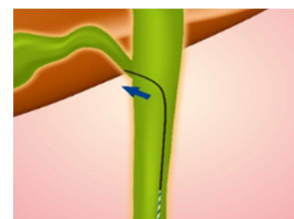
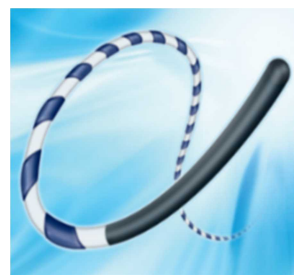
解剖や病態に応じてガイドワイヤ両端部が使用可能な「コストパフォーマンスが良い製品」であること、また、共同開発の医師と一緒にプロモーションを行ったことで市場でのインパクトは非常に大きく、多くの医療機関からお問い合わせをいただいています。

消化器内視鏡用ガイドワイヤは、患部を治療するためのカテーテルなどの医療器具を病変部まで導く役割(ガイド)を果たす製品で、細く柔らかい針金のような素材(主に形状記憶合金)で作られています。医師は、この針金のような細いワイヤを使いこなせるかが治療完遂のポイントとなるため、日々研鑽を積んでいます。

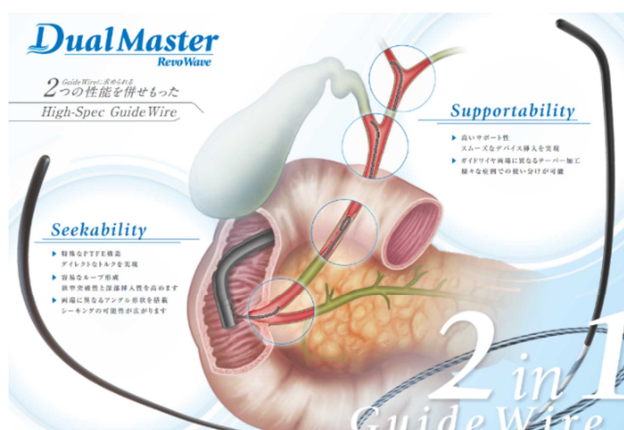
昨今では、消化器内視鏡領域で超音波内視鏡を使用した新しい治療が登場し、ガイドワイヤに求められる性能も幅広くなってきています。

こうしたなか、ワイヤに求められる複数の性能を兼ね備えた「RevoWave DualMaster」の発売により、今まで難渋していた治療がスムーズに行えるようになりました。医師の経験年数にかかわらず、多くの医師が安全に使用でき、かつこの1本で手技が完遂できる製品、それが「RevoWave DualMaster」です。

パイオラックスメディカルデバイスは、『**手技の標準化**』を実現する患者さんに優しい医療機器を提供し、**医療の課題を解決します。**」をビジョンとして掲げています。「RevoWave DualMaster」は、このビジョンを実現できる新しい製品です。



共同開発医師のコメント(順天堂大学大学院 医学研究科 消化器内科学教授 伊佐山 浩通先生)



「RevoWave DualMaster」には、患者さんの QOL 向上を目指し医師のニーズを踏まえた、パイオラックスメディカルデバイスの独自の技術が詰まっています。この製品の開発期間中、議論と検討を重ね、充実した時間を過ごすことができました。

多くの医師がこのガイドワイヤを手に取り、治療に役立ててもらえることを大変嬉しく思っています。

【組織】

1. SBU 制

当社が生産している自動車関連部品には、ファスナー部品、開閉機構部品、燃料系部品、駆動系部品などがあり、これらの商品分野別に SBU(戦略的ビジネスユニット)制を導入しています。

各商品SBUにはマーケティング・開発・製造の担当部署が設置されており、営業SBUと連携しながら商品ごとの市場変化に迅速に対応した独自の戦略を立案・実行することで、市場やお客様の要望に対して機動的に対応できる体制を構築しています。

パイオラックス SBU 体制



2. 設計開発

パイオラックスグループは開発提案型企业として、設計開発部門を日本を中心に海外拠点のアメリカ、イギリス、韓国、中国、タイ、インドに展開しており、高い創造力と確かな技術力により、お客様のニーズを的確に捉え図面化できる体制を構築しています。

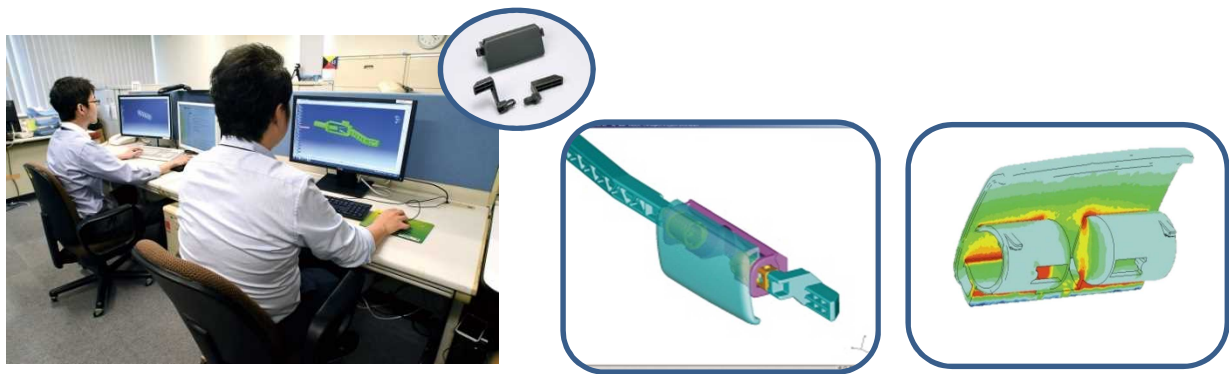
横浜テクニカルセンターは、設計開発のグローバルセンターとして、設計開発・営業・購買の各部門を同じフロアに配置することで、部門間のシームレスな連携ができる環境を整え、グローバルでの開発力の「同期化」と「同質化」を推進しています。

また、製品試験設備を横浜テクニカルセンター、真岡工場、富士工場の 3 事業所に配置し、最適な品質評価が行える体制を取っています。



環境負荷物質の調査

横浜テクニカルセンターでは、環境負荷物質に関する各国法規、規制およびお客様要求事項の改定を把握し、データベース化して開発・生産技術部門で活用することで、お客様に安全な製品を提供するよう努めています。



図面検討

デジタルモックアップ*によるレイアウト検証と構造解析

*デジタルモックアップ(DMU): 3D データを使用して、実物の試作品を作成せずにデザインの検証や干渉チェックを行うシステム



製品環境性評価、実装耐久試験



素材の環境負荷物質評価

＜知的財産への取り組み＞

基本的な考え方

パイオラックスグループでは、知的財産(特許、実用新案、意匠、商標、著作権、営業秘密など)に対する考え方として、①第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めること、②知的財産の合理的活用を図り、当社の利益に貢献すること、③当社特許のプレゼンス向上に努めること、の3点に重きを置き、関係部署やグループ会社と連携し、適切に知的財産を創造・保護・管理・活用しています。

知的財産活動

パイオラックスでは、職務発明に対して報奨金制度を設けて活発な知的財産の創造を促すとともに、社内教育を定期的に実施して知的財産に関する理解を深めるなど、適切な取り組みを推進しています。また、中期経営計画の重要戦略の1つである「CASE 対応商品の開発」について、特許戦略提案活動を行っています。対象とする CASE 対応商品について、社内外の特許情報を多角的に分析し開発の方向性を定めることで、強力な特許網を構築することを目的としています。

権利保有件数(当社グループ) 2023 年 3 月 31 日現在

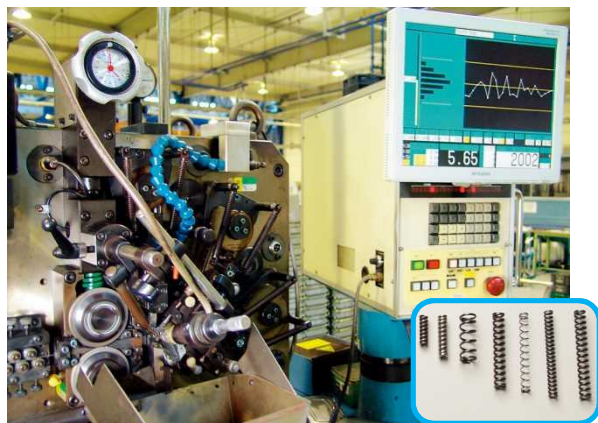
(件)

	特許	実用新案	意匠	商標
日本	442	0	35	87
外国	340	2	30	74

3. 生産技術

開発提案型企業にふさわしい製造技術力の構築とグローバル同質化を目指し、ファスナー部品と開閉機構部品は真岡工場、燃料系部品と駆動系部品は富士工場を中心に製造ラインを配置し、継続的な改善によるロス排除、グローバル生産性の向上、新工法の開発に取り組んでいます。

工程紹介



線ばね巻き線加工



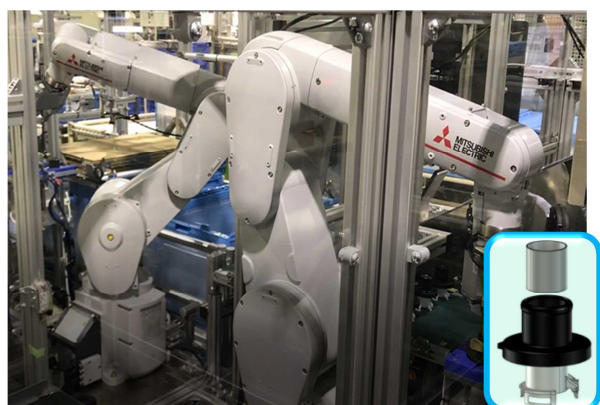
板ばねプレス加工



樹脂射出成形



セル生産ライン



省人化：ロボット組立ライン



自動化：フレキシブル組立ライン

【商品・顧客戦略】

- CASE 対応商品開発と受注拡大
- 顧客・製品の多角化
- 製品ごとの利益率最大化
- グローバル高品質の実現

当社グループの売上は、90%超が自動車産業向けです。なかでも日系自動車メーカーへの依存度が高く、当社グループの業績は日系自動車メーカーの生産販売動向に大きく影響を受けるリスクがあります。また、自動車業界では、カーボンニュートラル実現に向けた

取り組みが急速に進み、特に自動車の電動化が加速しています。

当社の製品の中には、電動化により受注の減少や消滅が見込まれる製品があります。このリスクを打ち返すべく、2022 年には CASE に対応する製品の受注拡大を加速させるための「e商品開発部」を新設し、CASE 対応商品の開発と受注拡大に向けてスピードを上げて取り組んでいます。

また、顧客の多角化として、日系以外の自動車メーカーへの拡販強化を掲げています。海外自動車メーカーの売上比率を 2025 年度には 17%まで引き上げる計画です。併せて、製品ごとの利益率最大化を狙い、高付加価値製品の技術開発を推進し、自動車の台当たり単価向上を目指します。これらの活動の土台となる「品質」をグループ全体の最重要課題として捉え、グループでの高品質実現を目指しています。2022 年度には新たな品質保証体制が始動し、品質マネジメントに沿った体制を更に強化していきます。

【事業戦略】

- 新規事業の発掘
- 収益構造改革

自動車業界における電動化などの新たな潮流により、当社グループも自動車事業を拡大するだけでは利益の拡大が見込めなくなる可能性があります。そのため、自動車部品、医療機器に続く第 3 の

事業を確立させるべく、2022 年に「MIRAI 事業部」を設置しました。MIRAI 事業部は、既存事業や製造業の括りにとらわれず、自由な発想で新たな事業の創造を目指しています。新規事業の発掘はトライアンドエラーの繰り返しですが、中長期視点でチャレンジし続けていきます。

将来の成長に向けて収益構造の改革にも着手します。パイオラックス単体では、2016 年度を境に利益率が低下しており、利益率の回復を目指した活動を実施しています。収益体質構築に向け、2023～2025 年度に固定費 10 億円削減と 2 桁営業利益率確保を目標に掲げています。また、成長に向けた投資として、CASE 対応商品や環境対応商品の研究開発費、国内インフラ整備、人的資本、デジタル化、DX や IoT への投資を積極的に進めていきます。筋肉質の収益体質構築と成長投資の 2 本柱で改革を実行します。

【地域別戦略】

- 北米、中国拠点の売上拡大
- アセアン拠点の収益力拡大
- 欧州大陸戦略の検討
- 地域統括機能の強化

北米拠点(米国・メキシコ)では、生産能力を拡大し、米国 BIG3(ゼネラルモーターズ、フォード、ステランティス)や VW(フォルクスワーゲン)、現代自動車など海外自動車メーカーへの拡販を強化していきます。

中国拠点では、電動化への大きな動きの中で、中国における日系自動車メーカーの低迷が今後も懸念されることから、日系自動車メーカーへの依存度を下げ、中国自動車メーカーへの拡販を強化していきます。アセアン・インド拠点ではタイ・インド・インドネシア 3 拠点での連携を強化する一方で、発展著しいインド自動車メーカーへの拡販とEV化への対応を強化していきます。

2022 年度の海外自動車メーカー売上比率は 13%でしたが、2025 年度は 17%以上を目標に掲げています。自動車の電動化、カーボンニュートラルへの対応をリードする欧州においては、欧州自動車メーカー、特にドイツ系自動車メーカーへの拡販を目指しています。欧州大陸戦略の足掛かりとして、2022 年度にドイツのデュッセルドルフに駐在員事務所を開設しました。2024 年度にはオランダに販社を設立する計画で、欧州での生産体制の見直しも進めていきます。

インド拠点の工場拡張

海外自動車メーカーへのアプローチを強化する中で、インドでは EV 用バッテリー関連部品を受注することができました。EV 関連製品への生産シフトと今後の増産に備えるため、チェンナイ地区の生産拠点を拡張し、2024 年 2 月に第 3 工場の竣工を予定しています。工場スペースの拡張に伴い、生産能力も現在の 1.5 倍に増加する予定です。今後見込まれるインドでの自動車産業の拡大に追随していきます。



インド拠点工場（チェンナイ）

中国自動車メーカーへの拡販強化

中国では、当社の主要な客先である日系自動車メーカーの低迷が続き、EV化への急速なシフトが進むなど自動車産業は新たな局面を迎えています。そのような中、当社グループは中国における日系自動車メーカーへの依存度を下げ、2030 年までに EV 車に強い中国自動車メーカーへの売上を全体の 30%に上げる目標を掲げています。ファスナー部品、開閉機構部品などの既存製品に加え、バッテリー周辺機器（熱マネジメント部品）や ADAS ブラケット関連（カメラ、レーダー、ソナーなどのブラケット類）の CASE 対応商品の拡販を強化していきます。

【成長投資戦略】

- 国内インフラ整備
- 研究開発投資強化
- DX 推進

中長期的な当社グループの成長を目指し、設備、研究開発、DX への投資を積極的に進めていきます。設備投資については、新真岡工場建設や新本社の建設など国内インフラの増強に加え、インド

など海外生産拠点の拡張にも投資していきます。特に海外では、CASE 対応商品などの新規製品に対応できる生産体制を構築していきます。また、カーボンニュートラルの目標達成に向けて、生産現場の環境対応への投資も進めていきます。

新真岡工場の正式稼働

当社は 2022 年度より、真岡工場(栃木県)の隣接地に新工場建設を進めてきましたが、2023 年度に第Ⅰ期工事が完了し、正式に移働します。新真岡工場は、パイオラックスブランドを世界に向けて発信する「グローバルマザー工場」になります。投資額は 2023～2025 年度の 3 か年で 101 億円となる見込みです。2024 年度には第Ⅱ期工事が開始し、2025 年度に完了予定です。延床面積はⅡ期工事完了後に 28,700 m²となる予定で、今後拡大する CASE 対応商品の生産にも対応していきます。



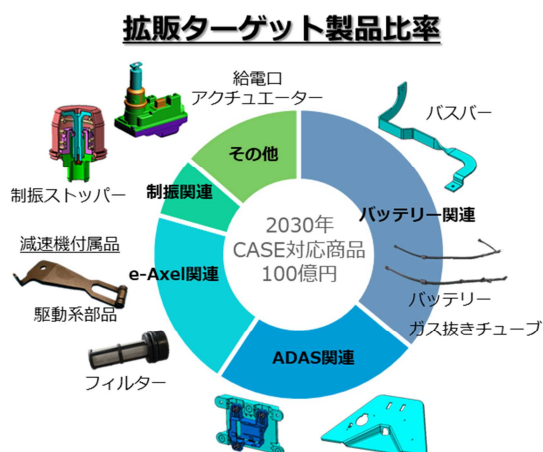
＜次世代型工場＞グローバルマザー工場

- 次世代型設備、成形ラインの導入
- AI / IoT 技術活用による自動化ライン
- DX による生産現場の効率化
- 2030 年 **生産性 200%向上**目標
- **カーボンニュートラル**に向けた取り組み
- **CASE 対応商品の生産**(増産体制)

CASE 対応商品開発への投資拡大

自動車業界は、「CASE」と呼ばれる新しい領域で技術革新が進み、100 年に一度といわれる大変革期を迎えています。その変化に迅速に対応し、CASE 対応商品の受注を強化するため、2022 年 4 月に「e商品開発部」を新設しました。e商品開発部では、営業、開発、生産技術の機能を一体化し、CASE に取り組んでいます。

当社の製品の中には、自動車の電動化により、今後受注の減少や消滅が見込まれるものがあります。このリスクを新たなビジネスチャンスと捉え、「2030 年の CASE 対応商品の売上高 100 億円」を目標に掲げています。



現在 e 商品開発部が注力しているのは、バッテリー関連商品、自動運転機能である ADAS(先進運転システム)に関連したセンサー・カメラ周辺機器や今後 EV 化を加速させると言われている動力装置 e-Axle(EV 駆動モータシステム)関連の商品、車内静音性への要求に応える制振関連商品などです。これらの受注拡大に向け、研究開発への投資を積極的に進めていきます。

【経営資本戦略】

- 資本効率の追求
- 株主還元
- ESG 経営の推進

資本政策の変更

2023 年 6 月に発表した中期経営計画(2023～2025 年度)で、配当性向 100%を 2025 年度まで 1 年間延長することを決定しました。資本コストを意識して ROE を改善させ資本収益性を高めることで、企業価値の向上に努めていきます。また、自己資本積み増しの抑制、配当性向 100%、機動的な自社株の購入と消却を資本政策に掲げています。

	2022～2024 年度 経営指標(前回)	2023～2025 年度 経営指標(今回)
ROE	8%以上 (最終目標:10%以上/EVA スプレッドのプラス化)	8%以上【継続】 最終目標:10%以上/EVA スプレッドのプラス化
連結配当性向	100%	100%【継続】

ESG 経営の推進

当社は 2021 年にサステナビリティ方針を定めてサステナビリティ委員会を設置し、社会課題の解決と当社の持続的発展に向けた取り組みを強化しています。

自動車事業に携わる当社にとって、カーボンニュートラルへの挑戦は必要不可欠で、持続可能な社会の実現に向けた責任であると認識しています。当社は 2022 年にカーボンニュートラルに向けたロードマップを作成し、公表しています。当社グループのカーボンニュートラルへの取り組みは、省エネ活動、再生可能エネルギーの導入、革新的エネルギー(メタネーション)の活用 の 3 点を軸としています。

海外拠点で太陽光パネルの設置を進め、2023 年度からは国内の 2 工場(真岡工場・富士工場)で再生可能エネルギーの 100%購入を開始しました。また、2023 年度に完成する新真岡工場では、太陽光パネルの設置など省エネを意識した設備導入を進め、パイオラックスグループのマザー工場としてカーボンニュートラルのモデルとなる取り組みを進めていきます。

ESG の「S(社会)」については、人財育成への取り組みを強化しました。将来の経営幹部育成に向けた人財育成プランを策定し、従業員のキャリアプラン策定のサポート、360 度評価の導入などを行いました。また、2022 年度に始めた従業員満足度調査を参考に、従業員のエンゲージメントを高め、企業価値の向上につなげる活動を行っていきます。新人研修の強化として、コロナ禍で滞っていた工場研修を再開し、研修期間を従来の 2 週間から 6 か月に延長するなど、現場での学びを通じた教育を大切にしています。

「G(ガバナンス)」については、2022 年度には社外取締役を増員し、女性取締役も 1 名から 2 名に増員しました。2023 年度には役員報酬制度を見直し、業績連動要素を導入しました。これからも中長期的な企業価値向上を目指し、ガバナンス強化に努めていきます。

【新真岡工場の紹介】

企業ブランドを発信するグローバルマザー工場の創設

真岡工場は 1970 年の竣工以来、長年にわたり当社の主力工場として生産活動を牽引してきましたが、設立から 50 年以上が経過し、老朽化が進んだことと売上増加に伴う生産スペース不足が重なったことを契機に、新しい工場を建設することになりました。現工場の隣接敷地を購入し、そこにある既存の事務所を改修して事務棟とし、樹脂棟と金属棟からなる新工場を建設する計画です。



取締役・上席執行役員 増田 茂

新工場のミッションは、「“Beyond our dream” ～夢の向こうへ～」とし、

①持続的成長を支える、②変化に追随する、③新しい事業や技術開発を促す、④ものづくり人財育成、の 4 つの機能を併せ持つ最先端の工場を実現します。

新工場のコンセプトの 1 つは、「生産性・柔軟性・信頼性の高い施設」で、生産性 200%を目指し、一貫生産ラインや次世代の熱処理およびジオメットラインの構築、AI や IoT を活用した DX などにより生産性向上を図るとともに、生産状況の変化や災害時の早期復旧に対応できる「止まらない工場」です。もう 1 つは、「環境配慮型工場」で、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）の A ランク達成と省エネに優れたスマートファクトリーを目指し、太陽光パネルの設置、カーボンニュートラルに寄与する最新設備の導入、BEMS（ビル・エネルギー管理システム）を用いた建物内データの一元管理と効率的運用を行います。また、生産機能に加えて、電動化や ADAS といった CASE 部品の研究開発、快適な作業空間や安心して働ける活気ある職場作りなど、新しい取り組みを進めていきます。

2023 年 12 月の樹脂棟完成までが第 I 期工事、2025 年 10 月の金属棟完成までが第 II 期工事、現在は計画どおり事務棟の改修を終え、樹脂棟の建設が佳境を迎えています。パイオラックスの新しいグローバルマザー工場として、企業ブランドを体現し、成長を加速させる工場を目指してまいります。



新真岡工場イメージ図



2023 年 11 月の状況